

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております)

2915号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 石田直裕：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>

三方五湖のあけぼの(福井県)



も く じ

随
想

初心忘るべからず……

徳島県勝浦町長 中田 丑五郎……(11)

情
報

町村Nav i……

(10)

フ
ォ
ー
ラム

まちの魅力を結集した平成の大茶会へ人口を上回るPRイベントの実現へ福岡県福岡市……(6)

政
策

地域おこし協力隊全国サミット開催……(2)

コラム

弔
辞読売新聞東京本社論説委員
コラム『編集手帳』執筆者

竹内 政明

内田百閒は随筆に書いた。「汽車を目の中に入れて走らせても痛くない」。寺山修司は語った。「私の墓は汽車の連結器の中につくってほしい」。作家ほど熱烈な鉄道マニアではなく、詩人ほど旅情に鋭敏な神経を持ち合わせているわけでもない。それでも旅においては長年、頑固な「列車派」をもって任じている。

なかでも夜行寝台列車が好きで、「北斗星」で行く旅は、わが貪しき人生にそう幾つもない楽しみの一つに数えてきた。上野と札幌を結ぶ寝台特急である。何がいいのかと問われればありすぎて困るが、上野発の場合でいえば仙台を出てからがことにうれしい。すでに深夜、岩手県に入る頃は車内のアナウンスが終わっている。沈黙のなかでホームに停車し、沈黙のなかをホームから出ていく。遠ざかる駅の灯を車窓から眺める胸の波立ちを、憂き世の何にたとえたい。

先月、北斗星が姿を消した。車両の老朽化に加えて、北海道新幹線の試験運行が始まると、ダイヤの調整がむずかしく

なることが廃止の理由らしい。青い客車の「フルートレイン」は、北斗星の後ろ姿とともに死語の仲間入りをすることになる。雨に濡れし夜汽車の窓に映りたる山間の町のともしびの色。あの明かりの下にも家族がいて、生活があり、ささやかな喜怒哀楽がある。車窓から眺める遠い灯に誘われた感傷を旅の思い出にしている人も多からう。

と、いくら愚痴を連ねてみても、泣く子と効率には勝てないご時世である。寝台列車の頃は良かった。いや、蒸気機関車の頃はもっと良かった。……と過去をさかのぼって行けば、『奥の細道』や弥次喜多道中の昔にまで戻らざるを得ない。未練の言葉を重ねたところで、無駄な抵抗とは承知している。

愚痴の最後は轢越ながら、北斗星を愛した人々に成り代わる勝手を許していただくとしよう。一星、二星、三つ命燃えつ、流れけり。高浜虚子の一句を霊前に手向け、うしなわれた旅情への供養とする。

◎写真キャプション◎

朝日が昇りはじめて山の稜線も明るみ、水月湖にはほのぼの明けの空が映る。水月湖は淡水の層と、それより重い汽水の層に分かれた二重底の湖である。福井県美浜町から若狭町にかけて点在する五つの湖はそれぞれ湖水の性質が異なるため、湖面の青の色調も全て違う。

政 策

地域おこし協力隊全国サミット開催

2015年3月8日、全国から自治体の職員や地域おこし協力隊員、一般の方など、総勢約700名が集い「地域おこし協力隊全国サミット」が開催された。このサミットは一般の方も含めた全国規模のイベントとしては初開催。会場に熱気や期待が立ちこめるなか、スタートした。

挨拶・PRタイム・特別講演

開会に当たって、高市早苗総務大臣から挨拶。

「都会から地方への人の流れができて、若い方々の感性で地域が元氣



▲冒頭に挨拶を行う高市総務大臣

になっていく。地域が元氣になれば、日本が変わると思いませんか。そのきっかけをつくるのが地域おこし協力隊のみなさんです」と、隊員や自治体に向けた力強い支援を約束し、地域おこし協力隊の今後の活躍に期待を寄せた。

全国の地域おこし協力隊員によるPRタイムでは、全国から集まった約300人の隊員が壇上にあがった。自治体ごとのカラーや創意工夫が見受けられ、会場が湧きあがった。

次に、日本を代表するクリエイティブディレクターの佐藤可士和さんが「地域おこし協力隊へのメッセージ〜Power of Communication」と題して講演。「ブランディングとは、『本質的価値×戦略的イメージコントロール』です。地域の一歩いいところ（本質的価値）を把握するためには、外部人材としてのコミュニケーションスキルが重要」と、クリエイティブを地域に生かすノウハウなどのお話があった。真剣な表情で聞き入る参加者たち。地域資源のブランディングに興味をもつ人の多さがうかがえた。

地域おこし協力隊トークセッション

明治大学農学部教授の小田切徳美先生、俳優の峰竜太さんをお迎えし、5名の地域おこし協力隊員によるトークセッションが行われた。

まずは、5名の自己紹介からスタート。

2013年5月から長崎県杵臼市で活動中の、合口（あいぐち）香葉



▲地域おこし協力隊員によるトークセッション（左は小田切教授と峰竜太さん）

さん。岩手県陸前高田市出身。東日本大震災を機に東京から長崎県へ移住した。「父が漁師だったこともあり、海女さんになりたくて、海女活動をしていたところ、隊員になり、2013年から新人海女の後継者として活動を始めました。地元のパティシエから指導を受けて、5〜9月はアワビ、サザエなどの収穫をしています」。

2013年10月から茨城県常陸太田市で活動中のミヤタユキさん。東京から着任した現代美術家だ。「常陸太田にはアーティスト・イン・レジデンス（アーティストを招聘し、滞在して作品制作を行う）があり、私はディレクター兼アーティストとして活動中です。古くなったこのぼりをリメイクしたブランドを立ち上げました。アートを通じて地域のあり方を考えたいと思っています」。

2013年4月から長野県・天龍村で活動中の内藤有香さん。静岡県浜松市出身。着任前は海外の秘境ツアーの添乗員だったという。「日本の田舎は最高だな、定住したいーと思う、その手段として応募しました。実は天龍村を選んだのは、応募資格の運転免許がAT車で可能だったから（笑）。コンビニも信号もない

政 策

■地域おこし協力隊とは

「地域おこし協力隊」とは、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、地域力の創造を図ることを目的とした制度。都市地域から過疎地域などの条件不利地域等に住民票を移動し、自治体から委嘱を受けて、概ね1年から3年以下の期間、「地域協力活動」（地域ブランド化や地場製品の開発・販売・プロモーション、農林水産業への従事、住民の生活支援など）を行う。制度の概要については図1を参照いただきたい。

また、地域資源を活用した起業は、隊員の定住につながるほか、地域の活性化にも目覚ましい成果を上げていることから、図2のとおり、2014年度からさらなる起業の促進に向けて隊員最終年次が任期後1年の間、起業に要する経費について自治体が支援を行った場合、100万円を上限に新たに地方財政措置を講ずることとした。制度が始まった2009年度は31団体、89人だったが、2014年度には444団体、1,511人（2013年度978名から1.5倍以上に増加）まで増えている。（都道府県別の受入隊員数（平成26年度特別交付税ベース）は図3のとおり。）

平成27年度予算については、図4のとおり、制度説明会等を開催し広く制度の周知を行うとともに、隊員への研修の充実、地域との連携による活動内容の充実・強化のモデル事業の実施等により、地方自治体の自主的な取組を支援していく。

総務省では、制度を一層拡充・充実するための取組として、各種支援施策実施していく中で積極的に活用していただきたい。

■図1 地域おこし協力隊について

地域おこし協力隊とは

○**制度概要**：都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。隊員は、一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地場製品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組。

○**実施主体**：地方公共団体

○**活動期間**：概ね1年以上3年以下

○**総務省の支援**：概ね次に掲げる経費について、特別交付税により財政支援

①地域おこし協力隊員の募集等に要する経費：1団体あたり200万円上限

②地域おこし協力隊員の活動に要する経費：隊員1人あたり400万円上限

（報償費等200万円（※）、その他の経費（活動旅費、作業道具等の消耗品費、関係者間の調整などに要する事務的な経費、定住に向けた研修等の経費など）200万円）

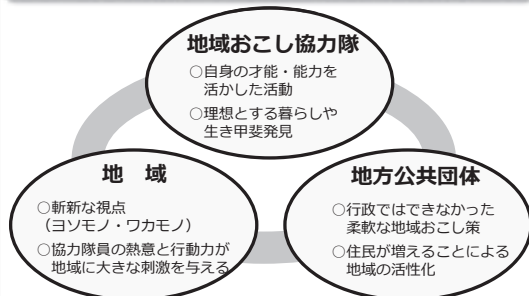
※平成27年度から、隊員のスキルや地理的条件等を考慮した上で最大250万円まで支給可能とするよう弾力化することとしている（隊員1人当たり400万円の上限は変更しない。）

③地域おこし協力隊員等の起業に要する経費：最終年次又は任期終了翌年の起業する者1人あたり100万円上限



地域おこし協力隊導入の効果

～地域おこし協力隊・地域・地方公共団体の「三方よし」の取組～



隊員数、取組団体数の推移

⇒ 隊員数を28年度までに3,000人に！

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
隊員数	89名	257名	413名	617名	978名	1,511名 (1,629名)
団体数	31団体	90団体	147団体	207団体	318団体	444団体

※各年度の特別交付税ベース

※26年度の隊員数のカッコ内は、名称を統一する「田舎で働き隊」の隊員数（118名）とあわせた隊員数である。

隊員の
約4割は
女性

隊員の
約8割が
20歳代と30歳代

任期終了後、
約6割が
同じ地域に定住
※H25.6末調査時点

田舎生活を体験してもらったため、学生を呼んで交流する活動をしています。」

山形県・朝日町で2010年10月～2013年9月まで活動していた、隊員OBの佐藤恒平さん。着ぐるみを活用して地域の情報を発信する研究をしていたところ、町から声をかけられ隊員に。「ゆるキャラの着ぐるみを使い、私自身が『中の人』となって町のPRをしていました。今は朝日町を含めた日本の各地で地域の方自身にアイデアを出してもらって、その振興をサポートする会社を運営しています。」

香川県・小豆島町で2012年6月～2014年3月まで活動していた、隊員OBの眞鍋邦大さん。香川県高松市出身。東京で外資系金融会社に勤めていたが、小豆島へ。「現版の『二十四の瞳』をやろうとティーチングツアーを行ったり、老若男女が集まる空間を目指して『ボナカフェ』をつくったりしました。地域応援をミッションとする株式会社459を立ち上げ、今も小豆島で活動しています。」

こうして、隊員の数だけストーリーがあり、各地で個性豊かな活動が行われていることがうかがえた。

政 策

■図2 地域おこし協力隊推進要綱の一部改正について

地域おこし協力隊推進要綱(平成21年総行応第38号)を一部改正し、平成26年度の特別交付税措置の算定から適用。

改正のポイント

○ 地方財政措置の充実

協力隊最終年次又は任期終了翌年の起業する者の起業に要する経費として1人あたり100万円上限に特別交付税措置。

【必要経費の例】

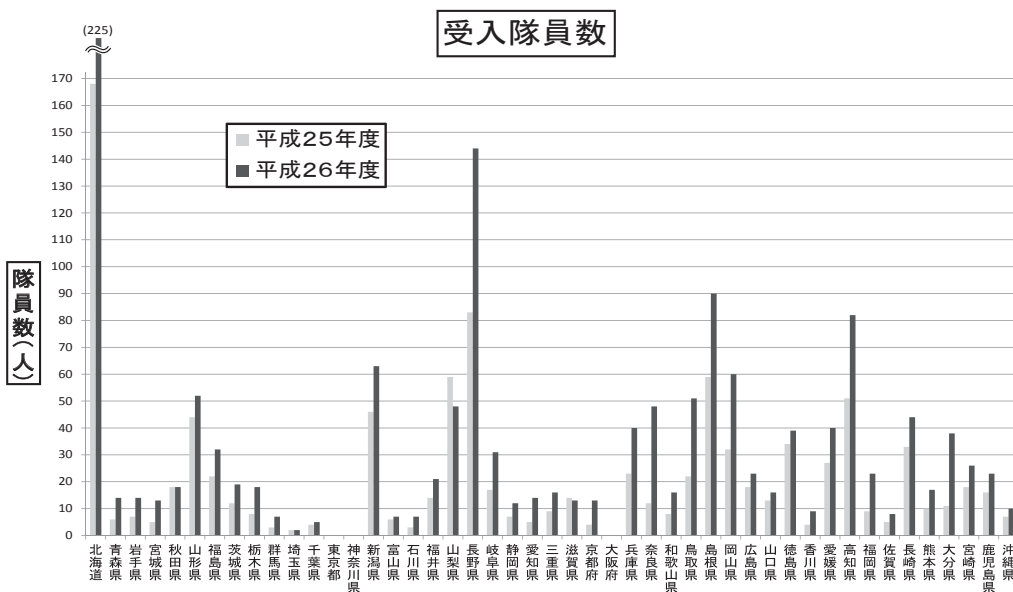
- ・設備費、備品費、土地・建物賃借費
- ・法人登記に要する経費
- ・知的財産登録に要する経費
- ・マーケティングに要する経費
- ・技術指導受入れに要する経費
- 等

例1 最終年次の協力隊員の場合、活動に要する特別交付税対象経費について現行の上限400万円(報償費等とその他経費を合わせた上限)に、起業に要する経費として100万円が上乗せされ上限500万円となる。

例2 任期終了翌年の元協力隊員の場合、起業に要する経費として100万円が特別交付税対象経費となる。

※ ただし、起業に要する経費については、1人について一の年度に限る。

■図3 都道府県別の受入隊員数(平成26年度特交ベース)



現役隊員の「将来の夢」などについて話がひろがる中、小田切先生が「OBの二人からみて、地域との付き合い方などでアドバイスはありますか?」とたずねた。

真鍋さんはこう返した。「行政から時には短期的な結果を出すことを求められると思いますが、その調整は難しいところですが、僕は『笑顔と愛嬌』で乗り切れることもあると思います。あまり焦らないでいい。中学3年生のための寺子屋の活動を

していますが、彼らが二十歳になったらときに初めて目に見える形の結果が出るのかもしれない。10年、20年と長い時間をかけて結果が出ることもありますから」。

また佐藤さんは、地域づくりとはしては、彼らが二十歳になったらときに初めて目に見える形の結果が出るのかもしれない。10年、20年と長い時間をかけて結果が出ることもありますから」。

地域おこし協力隊活動報告

2会場に分かれ、現役隊員や隊員

現場からのリアリティあふれる言葉や体験を共有でき、参加者それぞれが地域おこしについて思いを馳せた時間になった。

最後に、峰さんがこう締めくくった。「地域のひとのコミュニケーションが大切です。あまり迎合しようにせず、自分というものをしっかりとつてコミュニケーションをとることができれば、本当の家族のようになれると思います」。

政 策

OBからのトークが行われた。
兵庫県朝来市での活動を報告したのは、担当職員の馬袋真紀さんと、隊員の吉原剛史さんだ。

馬袋さんは、隊員がいきいきと活

動するため、大事にしていることがあるという。「隊員がやりたいこと、隊員自身ができる能力、地域の方が求めていること、この3つが重なっている部分を地域おこし協力隊に

■図4 地域おこし協力隊の拡充による地域への人材還流の推進

地域おこし協力隊の拡充のため、制度説明会等を開催し広く制度の周知を行うとともに、隊員への研修の充実、地域との連携による活動内容の充実・強化のモデル事業の実施等により、地方自治体の自主的な取組を支援し、地域への人材還流を推進。

【H27当初予算（案）0.3億円】

（一般枠0.6億円 計0.9億円）



やってもらうことにしています。この3つに共通することをしていないとひとりよがりの活動になりやすく、自分がしていることが地域に求められていなければ、孤独感にもつながってしまふ。

また、隊員と行政と地域の方、3者の想いのマッチングのため、次のことを行っていると話した。「隊員の募集前には、地域の方がやりたいことを明確にします。募集段階ではそれをしっかり明記して志望者に活動イメージを伝え、任期中は活動計画をつくり、地域の方にそれを伝え、たうで進めていきます」。

広島県三次市の隊員OBで、現在は弘前大学に勤める野口拓郎さんは参加している隊員にこうアドバイスした。「まず、地域の相関図をつくることです。簡易版のロードマップをつくるというですよ。担当だった川西地区は高齢化率が45%でしたが、広範囲に見れば近隣の広島市などに若者はいます。ですから、巻き込んでいくことは可能なのです。交流して近隣を巻き込みました。地域には、同じ行動をしても人によって受ける評価が異なるという厳しい一面もあったため、個別に『○○さん、頑張っていますよね』とフォローもしました。さらに、都会に住む人も

巻き込むため、帰省した際に地域おこしワークショップを開催し、地元への想いを育ててもらったのです。そうした活動で大切なのは、キーパーソンの確保だという。「交友関係が広がって地元愛が強い人を見つけ、その人に地域の情報を発信しました」。地元の人の95%以上が購読している地方新聞の影響力の強さにも目をつけ、連携するよう心がけたそう。こうして地域の若者を育て、担い手にしていくことを実現した。

「私は任期終了後、起業も定住もしていないけれど、こういう協力隊のあり方もあります。こういったノウハウを全国に生かしていきたい。今後は東北の地域づくりに貢献できたらと思います」。

まとめ

閉会後、参加者は交流をはかり、意見交換などをしていた。各自治体や隊員たちが「横のつながり」を得られることも、サミットの醍醐味のようだ。参加者の地域を思う熱い気持ちや会場を包み、初開催にもかかわらず大盛況のうちに幕を閉じることができた。この熱気が全国に波及し、全ての地方が元気になることを期待したい。

▷福智山の中腹に咲く推定樹齢600年のエドヒガン「虎尾桜」



現地レポート

地域資源を活かした活性化策

まちの魅力を結集した平成の大茶会

～人口を上回るPRイベントの実現～

福岡県

福岡県
ふく ち まち
福智町



上野焼と童謡の里・福智町

福智町は、平成18年3月に赤池町・金田町・方城町の3町が合併して誕生した人口約2万5千人の町です。名峰・福智山が裾野を広げ、遠賀川水系の彦山川が貫流する環境の中で、今日まで豊かな文化が育まれてきました。町内には福智修験ゆかりの文化財や足利尊

氏ゆかりの古刹「興国寺」、宮本武蔵ゆかりの「常立寺」などが点在。福岡県内最大最古で樹齢6百年のエドヒガン「虎尾桜」や樹齢5百年の大藤「迎接の藤」、上野峡の瀑布「白糸の滝」など、天然資源にも彩られています。

また、かつては、わが国のエネルギーを支えた筑豊炭田の一角として、屈指の鉱山を有する炭鉱の町として栄え、近代化遺産も残されており、「かもめの水兵さん」や「うれしいひなまつり」など、数々の名曲を残した作曲家・河村光陽の生誕地として、音楽の町づくりも展開しています。そのような多彩な歴史や文化を誇る福智町ですが、なかでも町を代表する地域資源が伝統的工芸品の「上野焼（あがのやき）」です。

人口以上の参加者を誇る メインイベントの実現

現在21の窯元が点在する「上野焼」は、千利休の高弟で当時屈指の大名茶

フォーラム

▷足利尊氏ゆかりの古刹「興国寺」



人・豊前小倉藩主の細川忠興が、李朝陶工の尊楷（そんかひ）を上野の地に招いて開窯した国焼茶陶。御用窯かつ藩窯としての歴史を重ね、400年以上の伝統が受け継がれている国指定の伝統的工芸品です。その歴史も伝統も誇るべき陶芸ブランドなのですが、近年のライフスタイルの変化や、焼きものばなれが進むなか、その影響を受け、上野焼400年祭をピークに売り上げも知名度も伸びず、入り込み客数も減少の一途をたどっていました。

一方で、観光スタイルが多様化し、隣接する田川市の「山本作兵衛炭鉱記録画」が世界記憶遺産に指定されたこともあり、地域には徐々に観光客が訪れ

◁利休七哲の大名茶人、細川忠興が創始した上野焼（あがのやき）



るようになってきました。このようなニーズと環境の変化により、従来の観光地ではない福智町でも、手法や展開次第で成果を挙げる可能性がひろがったことを認識し、福智ならではの風土や魅力を活かした観光のまちづくりを加速させることになりました。そこで求められたのが、まだまだ知られていない「福智町」や「上野焼」の知名度を向上させ、交流人口と地域活性化を高め、内ではなく外に向けた、観光型のシンポリアルイベントでした。どうしたら集客で



△新たな町の特産品として開発した「ふくち☆リッチジェラート」

きるか、いかにすればPR効果や経済効果が得られるのか。そのことを追求した結果、福智ならではの魅力を融合させる手法を取り入れることにしました。単体では弱い地域資源の力でも、結びつけることで相乗効果が発揮され、強くなります。実際「上野焼陶器まつり」だけでは従来のように集客できないという課題も背景にありました。そこで取り組んだのが「フクチ・ファインド・フェスティバル」です。郷土の食、上野焼の器、童謡の町の音楽、それら「食」と「器」と「音楽」の出会いをテーマに福智を広くPRし、地域ブランド化へとつなげる取り組みに着手。フュージョン（融合）↓ファインド（発見）↓ファンの「3Fサイクル」の創出を目指して、福智ならではの魅力のコラボレーションを核



△福智名物「方城すいとん」

に企画。さらに、打ち上げ花火的な一過性の成果ではなく、新たな福智の魅力となりうる資源を生み出すことを主題に掲げました。

初回は「ご当地グルメ」をテーマに特産品開発委員会を立ち上げ、日本最大の炭鉱爆発事故をルーツに、炭鉱長屋で育まれた「福智名物・方城すいとん」を発掘しました。その後、ご当地グルメで町おこしに取り組む「福智好いとん隊」が発足し、日本青年会議所主催の「全国地域活性化からいち」では飲食部門で70団体中第1位を獲得。本年度、町内でメニュー化する店舗も10店舗まで増加し、学校給食メニュー化も実現しました。

2回目は「福智ブランド」をテーマに、新たな町の特産品として「ふくち☆リッチジェラート」を開発し、発表披露。上野焼のピアカップにあう絶品グルメを集め、上野焼をはじめとした町内27軒の全窯元が参加する「陶器まつり」も初めて実現し、1万5千人が

フォーラム

来場しました。その後、一般社団法人「福智ブランドファクトリー」を設立し、福智素材と手作りにこだわった「ふくち☆リッチジェラート」を展開。今ではコンビニエンスストアをはじめとする30店舗以上の販路開拓を達成し、雇用と経済とPR効果を生み出しています。

そして3回目となる昨年、上野焼の茶陶という最大の魅力に着目。催しを茶会に見立て、日本文化の総合芸術ともいわれる茶道と、そこに欠かせない茶器、抹茶、茶菓子（スイーツ）、そして一期一会のおもてなしといった、福智にしかないエッジの立ったコンセ



▷日本航空やトヨタ自動車九州、TOTOなどの企業と連携した取り組みも展開

◁福智スイーツ大茶会の開場前、金田駅前で長蛇の列が並んだ



プトを設定しました。上野焼の「器」の魅力と「お茶」と「スイーツ」の魅力が互いに高まり合う「平成の大茶会」をテーマとした空間を創出し、ここに「福智スイーツ大茶会」という町の一大イベントを生み出すに至りました。

これまでの取組みの中で、イベントは、結果よりもむしろ、そこに至るまでのプロセスにこそ価値と意義があることを学びました。また実務を通じて、真のシティプロモーションは業者委託では限界があり、心を込め、血の通ったPRでなければ人の心を動かすことはできないことを実感しました。たとえ多額の委託金を使って派手なイベン

トができたとしても、上つ面なPRしかできず、地域が何かを得たり、そこに残るものは少ないと感じています。こうした振り返りを生かす形で準備を進め、上野焼協同組合や商工会、文化連盟はも

ちろんのこと、日ごろ町づくりを支援いただいている日本航空やTOTO、福智町に本社を置く平成筑豊鉄道をはじめ、JR九州や西鉄といった企業、地元の福岡県立大学のご尽力を得ながら、つながりの力を最大限に発揮するイベントとして「フクチ・ファインド・フェスティバル」は昇華を遂げました。そして、趣旨に賛同いただいた福岡県洋菓子協会の絶大な協力により、有名店をはじめとする36店舗の出店で、福岡県内最大規模のスイーツイベントが実現。町の人口を上回る3万人の来場と、数千万円の経済効果とPR効果を残すことができ、町のメインイベントに位置づけられるまでになりました。

取り組みが産んだつながりと 気づき

4回目となった今年は、42店舗もの出店により、九州最大規模のスイーツイベントとして実現。前回を上回る規



△博多ミラベル21とのコラボレーションも実現

模の集客と経済効果、PR効果を上げ、平成筑豊鉄道の沿線自治体を巻き込んだ広域連携による取り組みに拡大しました。大茶会をコースに含んだ旅行会社の観光ツアー企画や博多の一流シェフ集団「博多ミラベル21」監修による「ふくち☆リッチジェラート」の新作披露。さらには、国内でも例を見ない陶器製上野焼の特製タンブラーの開発など、後の地域資源となるイベント成果も残すことができました。

そしてうれしいことに、延べ100人にも及ぶ行政職員のイベントスタッフ間にも、単なるお手伝いではなく「一緒に成功させよう」という意識共有が芽生えました。他の真似ではなく福智にしか出来ないもの、地域資源を活用する取り組みから、携わる私たちが「福智らしさ」の素晴らしさに出会い、故郷の魅力やポテンシャルに気づけたのではないかと思っています。当初の目的どおり、ただの人寄せのイベントには終わらせたくなかった大茶会。それ

フォーラム

▷福智スイーツ大茶会の会場風景



はやがて、住民のみなさんの共感や驚きと発見、そして誇りを生んだことを実感しています。

その背景には、業者委託ではなく、関係者の熱意と、そこで生まれた各団体との信頼関係が実を結んだことが何より大きかったと思います。実働の中で、担当部署の者たちが本気でやっている姿を示さなければ、人の心も動かない。多くの尽力を借りなければ実現できない規模のイベントだからこそ、ポジションパワー（地位力）ではないヒューマンパワー（人間力）が必要だということ学びました。ほんの少しでも意識が変われば、動き出せば、人が変わる。その積み重ねが町を変えていく。

人は変わるし、人を変えるのも人なのだと感じています。

人は感動や心を動かされることがなければ行動にまで結びつきません。ましてや大切なお金を支払うこともないでしょう。この取り組みでは経済効果や集客数など、明確な数字で結果を出さなければならぬ厳しさもあります。しかしあえて、今後の「フクチ・ファインド・フェスティバル」では、地域ブランド化に加え、定住促進施策を両輪として連動させた人口増加という大きなインナーコンセプトを設定しました。それは、まだまだ知られていない真っ白な「福智」の状態だからこそチャレンジできる取組みです。地方創生の政策も含みながら、可能性がある限り高い目標を掲げ、福智ツーリズムや産学官連携など、幅広いアプローチで挑戦していきたいと思っています。

地域の宝はモノではなく人

人の「思い」や「心」を表現して伝えたり、人の心の奥底を真に揺さぶることは、コンピュータやロボットではできないと思います。ましてや「志」を次代に継承することもできないでしょう。地域の宝は、観光資源というモノではなく、それを活かす「人」なのだと思います。

今回の福智町の取り組みでは「想い」や「熱意」、「信頼」や「つながり」と

▷童謡作曲家・河村光陽を顕彰する「協奏の庭」



いった古くさいキーワードばかりで、ITなどの最新技術や統合型マーケティングコミュニケーションを駆使した先進例ではなく、申し訳なく思っています。でもあえて、その古くさいキーワードこそ、まちづくりに大切なものではないかと痛感しています。そんな志を、次代を担う人たちと共有したいし、多くの人と感動をわかちあいたいから、チャレンジを続けたい。福智の空の下で「この町で生きていこう」と、一人でも多くの人にとってもらえるような町にしていきたいと願っています。

福智町 まちづくり総合政策課

車両共済(保険)のご案内

この車両共済(保険)は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの補償(車両保険)」を追加する制度です。お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済(保険)金をお支払いします。

●お見積りのご請求・お申し込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください●

株式会社 千里(取扱代理店)

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内
●ホームページアドレス <http://www.chisato-ag.co.jp>

お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください

(受付時間 月～金 午前9時30分～午後5時)



0120-731-087

FAX 03-3519-7325

●「車両共済(保険)制度」は、全国町村職員生活協同組合と損害保険ジャパン日本興亜株式会社とが集団協約を締結し、実施しているものです。

●集団協約としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパン日本興亜の定める条件を満たす場合のみとなります。

詳細については、取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

(車両保険引受保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社

「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」は損保ジャパンと日本興亜損保が2014年9月1日に合併し誕生した会社です。

随 想

想

随

初心忘るべからず

徳島県勝浦町長

中田

丑五郎



くあゆみ

平成18年2月5日に町長に就任して3期目の1年が過ぎようとしている時期を迎え、様々なことが思い起こされます。

私は、昭和22年に生を受け、私の名「丑五郎」は、県下三大美林の一つと称される勝浦町立川で林業を営んでいた祖父の名前からいただきました。

平成18年に町長選に初当選して以来、3期連続無投票で町政運営に取り組んできましたが、私の父森蔵も、林業が町の主要産業として栄えていた昭和34年から勝浦町長として3期連続で務めたことを思うと、政治の道を志したのも、父の背中を見ているうちに自然と父親の血を引き継いでいたのでしょうか。

私が町長選にはじめて立候補した平成18年1月は、まさに「平成の大合併」が声高に叫ばれている頃であり、勝浦町も近隣市との合併協議を

行ってきましたが途中で破綻し、町政は混乱を極めていました。当時、私は助役として町政運営に携わっておりましたが、町長に当選してもなお批判がよせられるなど、大変厳しい時期であったことが今でも思い起こされます。

町単独での財政再建を行う舵取り役を任された私は、職員の人員費削減をはじめ、町立保育所の民間移管による業務の効率化、借入金の特減による財政健全化など、選択と集中による「行財政改革」に邁進しました。その結果、実質公債費比率は平成18年に23・4%と県下ワーストワンのでしたが、平成25年には8・6%まで大幅に改善することができました。

今後、引き続き行財政改革に全力で取り組むとともに、平成23年度に策定した「勝浦町総合計画」の重要施策を着実に推進してまいります。

く愛する郷土かつうら

勝浦町は、昭和30年3月1日、横瀬町と生比奈村が合併し、誕生しました。徳島県の南東部に位置し、面積69・80平方キロメートル、緑なす四方の山々、山裾に開けた黄金色のみかん畑、平野に広がる田園風景、そして町の中央を勝浦川の清流がゆったりと流れる自然豊かな中山間地域であります。また、開創1200年を迎えた四国八十八箇所霊場の第20番札所「鶴林寺」をはじめ、江戸末期に始まり国の重要無形民俗文化財に指定されている阿波人形浄瑠璃「勝浦座」が活動するなど、信仰深く、郷土芸能が息づく町並みであります。

勝浦町はみかん栽培の発祥地と言われ、この恵まれた大地で育った阿波みかんは、酸味と甘みのバランスがとれており、貯蔵することで奥深い甘みを感じることができ「勝浦貯蔵みかん」として、全国各地に出荷されております。

また、忘れがたい東日本大震災の翌日である平成23年3月12日に、県下15番目となる道の駅「ひなの里かつうら」をオープンいたしました。ここでは、勝浦の農産物が購入できる産直市場「よつてネ市」が、連日賑わうとともに、人形文化交流館では、毎年、全国に春を告げる「ビッグひな祭り」が開催され、高さ8メートルのピラミッド型ひな壇を中心に、約3万体のひな人形が会場を彩る町の一大イベントとなっております。

この「ビッグひな祭り」は、現在、千葉県や和歌山県などにひろがりをみせており、また、来年リオデジャネイロで開催されるオリンピックに合わせ、現地で日本の文化を伝える催しを行う計画も進んでいるところでもあります。今や道の駅全体が、町の「産業・文化の交流拠点」として欠かすことのできない場所になるとともに、世界に向けた「ひな人形」の魅力発信拠点として注目されております。

くこれからのまちづくり

本年は、勝浦町が発足して60周年の記念すべき年であり、これまで先達が築き上げてきたこの勝浦町を、次の世代にしっかりと繋げていくことが大きな使命であると考えております。

国では、地方が成長する活力を取り戻し、人口減少を克服するため「地方創生」を施策の柱として掲げており、国が本腰を入れて地方創生に取り組むこの時期を逃すことなく、人口減少対策や定住促進対策など、「勝浦町の創生」に向けた施策を積極的に講じていく必要があります。

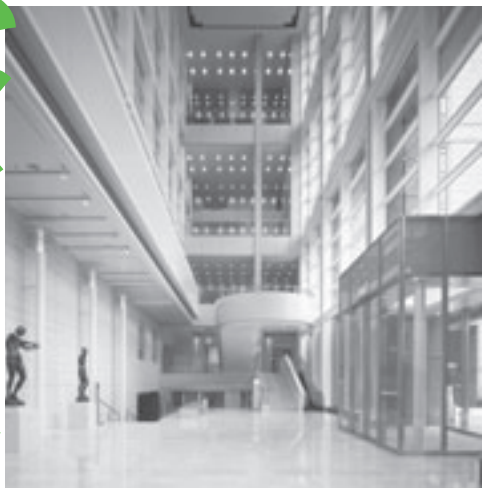
そのためには、初心を忘れることなく、公平公正な町政運営につとめ、安全・安心で、元気なまち かつうらの実現に向けて、これまでの先例にとらわれない斬新な発想で、積極果敢に行政課題に挑戦してまいります。

TIME of RELAXING

「ゆとり」と「やすらぎ」のひとつとき

静かさ心地よさに配慮し、室内インテリア全体を落ち着いた雰囲気にとり、ゆったりとしたやすらぎのひとつときをお届けいたします。

<http://www.zck.or.jp/kaikan/index.html>

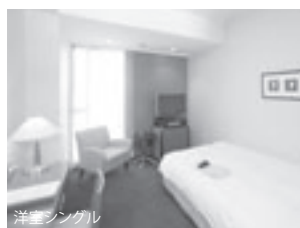


土・日・祝日は リーズナブルに

土・日・祝日のご宿泊は、
平日料金の **20%OFF**

金曜日のご宿泊は、
平日料金の **15%OFF**

和室もございますのでお問い合わせ下さい。
禁煙ルームをご用意しております。



シングル 119 室
平日料金 10,100 円より

SINGLE
ROOM

金曜日料金
15% OFF
8,600 円より

土・日・祝日料金
20% OFF
8,100 円より

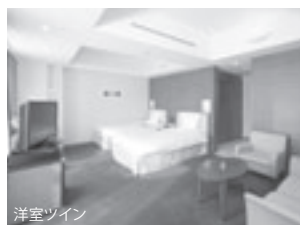


ダブル 12 室
平日料金 13,700 円
〈2 名利用〉※1 名利用の場合 11,400 円

DOUBLE
ROOM

金曜日料金
15% OFF
11,600 円
※1 名利用の場合 9,600 円

土・日・祝日料金
20% OFF
10,900 円
※1 名利用の場合 9,000 円



ツイン 17 室
平日料金 19,000 円より
〈2 名利用〉

TWIN
ROOM

金曜日料金
15% OFF
16,200 円より

土・日・祝日料金
20% OFF
15,200 円より

会議室・宴会場

2 階には広さと設備が多様な、大小 4 つのホール、会議室。高い機能性を持ち、さまざまな演出が可能です。会議・研修、パーティーなどに幅広くご利用いただけます。

カジュアルレストラン「ベルラン」

ランチタイム 11:00 ~ 14:00
ディナータイム 14:00 ~ 17:00
ディナータイム 17:00 ~ 22:00
(21:30 ラストオーダー)

和食処「さいかち」

ランチタイム 11:30 ~ 14:30
(14:00 ラストオーダー)
ディナータイム 17:00 ~ 22:00
(21:30 ラストオーダー)



全国町村会館

市町村職員共済組合等の宿泊助成券がご利用いただけます。

お電話でのご予約・お問い合わせは

TEL 03(3581)0471

FAX 03(3581)0220

〒100-0014 東京都千代田区永田町 1 丁目 11 番 35 号

WEB からのご宿泊予約は、特別料金(部屋数限定)がございます。

ホームページは

[全国町村会館](http://www.zck.or.jp)

検索

全国町村会館へのアクセスガイド

- 有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町」3 番出口徒歩 1 分
- 丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩 8 分
- タクシー東京駅から約 20 分

